

---

## 編集後記

---

今年度から編集委員が一部交代しました。

諸事情により退官されたのは、青木正、奈倉勇爾（以下、先生の称号は略させていただきます）、長い間ありがとうございました。そして、新しく編集委員に就任されたのは、秋澤忠男（昭和大学腎臓内科）、岩元則幸（桃仁会病院）です。よろしくお願いします。

現在の日本透析医会雑誌のサイズ、表紙の図案、ロゴマークなど様式を変更したのは、15巻1号（Vol. 15, NO. 1, 2000年）からです。当時の委員は飯田喜俊（委員長）、久保和雄（副委員長）、山崎親雄（担当理事）、小野利彦、小出桂三、坂井瑠実、鈴木正司、関野宏、原田孝司、頼岡徳在。当時から医会雑誌の特徴として継続している「医療経済」、「医療安全対策」、アップトゥデートの「臨床と研究」などは今号も必読の内容です。

「医療経済」では、これからの高齢者対策として「介護施設」などの利用を手がけられている先生方をお願いしてシリーズで執筆いただいております。これからの高齢透析患者への「透析医療体制の提供」の一助になればと考えて継続しております。「医療安全対策」はインフルエンザ、ノロウイルスの2編、透析室の集団感染予防対策として一読願いたい。「臨床と研究」では、7編のすぐれた論文を掲載。水素分子の問題は今後、ストレス、電解水透析液への発展が期待される分野かもしれません。

また、内容を少し追加させていただいている「透析医のひとりごと」、透析療法の黎明期からご活躍されている先生方をはじめ、現職を引退される前に、提言、貴重な経験、体験、あるいは回顧録を自由に記載していただいております。先輩のご苦勞に納得、あるいは大げさに温故知新とは言いませんが、参考にさせていただければと考えています。ぜひご一読をお願いします。

医会雑誌は会員の皆様に広く読まれなければなりません。今後、何か編集、内容にご意見がございましたら、事務局広報担当あるいは、編集委員へご連絡をお願いします。

広報委員会担当理事 杉崎 弘章